

地域密着型サービス評価の自己評価票

(■ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="radio"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念である「あい・ふれあい・みとめあい」の中で、入居者の「できること探し」を行い、それを奪わない支援をおこなう上で、その方の充実した日々を提供している。 地域自治会に加入し、地域行事に参加し、交流を深めている。	<input type="radio"/> 施設に地域の方に行事等参加してもらっているが、施設側からも地域行事等への参加をもっと増やしていく。
2	<input type="radio"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「あい・ふれあい・みとめあい」の運営理念に基づいて、市の上ではできること探しを基本にしている。 できること探しを行うことで、互いをみとめあい、みとめあう中のふれあいを通じ、日々の取り組みに生かしている。	
3	<input type="radio"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	市の上家族会など意見を取り入れている。 また、運営推進会議などを通じて、地域の方への情報を発信するようにしている。	<input type="radio"/> 施設側に、外部の方の取り込みは出来ているが、もっと施設側から地域活動への参加を積極的に行い、市の上の楽しさを見ていただく。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="radio"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣催し物への参加など自治会より参加のお誘いがある。 近隣にお住まいの方から、季節の野菜やおやつなどを頂いたりしている。 行事に関しても、自治会を通して近隣の方に情報を発信し、参加を呼びかけている。	<input type="radio"/> 近隣のお子様並びに父兄の方が遊びに来られたりしているが、老人の方に来訪していただけるようにする。
5	<input type="radio"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に参加していることはもとより、地域活動について当施設が災害時避難場所として、地域に位置づけをされており、近隣の方への安心を提供している。	<input type="radio"/> 施設側に、外部の方の取り込みは出来ているが、もっと施設側からの外部方の参加を積極的に行い、市の上の楽しさを見ていただく。

福岡県 グループホーム 市の上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「こども110番」に協力参加をしている。 防災時の避難場所として地域自治会から指定を受けている。 地域密着を目指す中、近隣の方に参加していただき認知症や介護、老人福祉について等勉強会を開催し大変好評であり、市の上としての役割として、地域に貢献していく。		
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価機関からの評価されることで、私たちの取り組みを多くの方に発信できる。 評価されることで、入居者並びに家族様への幸せにつながる。 日常業務のマニュアルを職員が作ることで、各職員が同一ケアを行えるよう実践をしている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、家族会役員ならびに地域代表、近隣代表、公的機関等に参加をしていただき、様々な意見を取り入れ、サービスの改善に努め、より良いサービスを考えている。	○	運営推進会議に入居者代表もしくは入居者参加をしていただけるようにしていく。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各公共機関ならびに、地域包括センターに入居者の紹介をいただくなど、相互の協力を働いている。 また入居者の情報や希望を共有することで、ニーズへの対応を考えサービス提供の質の向上に努めている。	○	市町村や地域の方と共に、入居者とのふれあいを通じ、サービスの質の向上を考えていきたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部講師を招き勉強会を行っている、施設内においても勉強会を行い、理解を深めている。	○	誰もが、その意義と意味を理解をし必要に応じて説明が出来るように教育をしていく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部講師を招き勉強会を行っている、施設内においても勉強会を行い、理解を深めている。 認知症への理解を深め、認知症であるからこそにおいてのケアのあり方を理解し、認知症における虐待とは何かを常に考えている。		

福岡県 グループホーム 市の上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<input type="checkbox"/> 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要取扱説明事項並びに契約書の全文を読み上げ、その際に説明並びに同意を得ている。 不明な点・疑問などはいつでも答えられるように心がけている。 契約時において、管理者のみで行うのではなく、各職員が説明を行う上で、各職員に意味を理解することで、いつでも利用者ならびに家族への対応が出来るよう指導している。	
13	<input type="checkbox"/> 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行い、入居者の声が反映できるようしている。いただいた、お声に対して、カンファレンスでの周知徹底を行なうことはもとより、運営会議においても検討を行い、職員に周知徹底を行なっている。家族にも説明を行い運営に反映している。カンファレンスにおいて、入居者も参加を促し、意見を反映させている。また家族会の了解をもらい、第三者評議会を設置することで、意見を求めていくようとしている。	
14	<input type="checkbox"/> 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書送付の際に施設便りと共に、各入居者担当職員が近況報告のお手紙を書いている。 金銭管理においてはお小遣い帳元帳を同封している。 職員異動等については、施設便りの中でお知らせをしている。	
15	<input type="checkbox"/> 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族間の意見を聞き取れるよう、家族会役員が、その中枢を担っている。 家族会にて意見、不満、苦情を運営会議ならびに職員会議で話し合いを行い、より良いサービス提供が出来るように努めている。	
16	<input type="checkbox"/> 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善委員会における目安箱の設置を行い、職員意見を多く取り入れている。意見反映場所として、役員会議・合同運営会議・運営会議・職員会議を行なっている。 楽しい職場作りを考えています。造り甲斐がある仕事だからこそ、楽しむ事が大事だからです。	
17	<input type="checkbox"/> 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日勤帯3対1を基本に勤務調整を行なっているが、行事事などにおいては勤務者数を増やし調整を行なっている。 また、管理者並びに看護師においては基本勤務者数とは、別に勤務し、急な変化・要望にも柔軟に対応できるようにしている。 入居者の笑顔を第一と考えている、手薄になることにならないよう、行事ごとに最初から増員をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットであるが、職員を分けるのではなく施設全体の職員として考えている。 そのことにより、全入居者に全職員が対応できるようになり、もし離職者がでても、常に同じケアを提供できるようにしている。 離職時において、全入居者との写真を撮ったり、お互いの思い出を作ることを大事にしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	雇用に際しては偏見並びに差別などないように、面接には複数(社長・施設長・管理者・主任・職員)で行っている。 採用に当たっては、管理職の意見のみで決定するのではなく、現場職員の意見を大にして採用をしている。 同じ職場で働く職員間のチームワークが大事だからだと考えているからです。		
20 ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内勉強会・外部講師による勉強会を行い人権教育並びに啓発運動に取り組んでいる。		
21 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育担当者を配置し職員一人一人にあった指導をおこなっている。 職員の不安を解消するために研修・勉強会・講習などに参加をし、不安を解消することで、自信の基礎力に変えていくよう考えている。		
22 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加をし、他施設との交流の場にも積極的に参加をしている。 職員を、他施設において研修なども行っている。	○	ヘルパー講習の受け入れ施設として、良き人材育成を行い、認知症介護の質の向上を目指していきたい。
23 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務改善委員会において、「目安箱」を設置し、職員の意見を多く取り入れている。意見反映の場として会社役員会議並びに合同運営会議、運営会議、職員会議等にて反映している、親睦会を定期的に行っている。ストレスとの上手なつきあい方を学ぶためにも、外部研修に参加をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働くように努めている	各職員は、担当の入居者のケアプランを作ることにより、入居者の幸せを常に考え切磋琢磨しているなかでの喜びを見つけ、入居者と共にしている。ケアに対する喜びを見つけ楽しむ中で、向上心につなげている。職員の不安を解消するために必要な研修・勉強会・講習などに参加し不安を解消することで、自分の基礎力に変えていくよう考えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の元に直接職員・担当者は事前に出向き、ゆっくりと表情を見ながら会話をし、情報収集をし本人にとってのニーズや不安を把握している。 本人・家族が今後、どのように生活していきたいのか、何度も話し合いをし信頼関係を築き上げる努力をしている。		
26 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	職員は事前に直接、家族の方と会い、家族が考えている、施設での不安や悩みを聞くようにしている。		
27 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族を含めた話し合いを行うことで、現状把握をし、今求められているニーズを明確にし、その方にあったサービスを提供できるよう、地域との連携も踏まえ当施設以外のサービスも含めた検討ができるような対応をしている。本人へあったサービスが円滑に出来るよう、当施設を拠点に他機関との連携を密に図っている。		
28 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に見学にきていただき、雰囲気や多入居者並びに職員の顔を知っていただく。また本人の生活習慣、趣味などを含めたお話しをする中で、性格や心身の状態にあわせた支援を行い、その方に合い必要とされるサービス内容を検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場における、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の「できるごと探し」をする中で、入居者の役割を確立していく課程とともにすごし、日々の生活の楽しみを味わうなかでの、共感や共存を感じている。		

福岡県 グループホーム 市の上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場における、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当者より、家族宛に現在の本人の情報を手紙にし送っている。また、家族が来館されたときや電話で現状報告や相談をし、本人にとって自然な状態過ごせるように連絡を取り合い本人を支えていくなかで、家族とチームになることでのケアの向上に努めている。		
31 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていくように支援している	本人、家族との関係を、入居者一人ひとり検討し、互いの要望を聞き入れながら、家族とのよりよい関係を構築している。入居者・家族のふれあいの場を多く提供し、入居者・家族の関係がよりよいものとなるように努めている。		
32 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が希望する場所などがあれば、車でドライブ気分で行ったり、少し遠くであれば、誕生日等で個別的な対応も行っている。		
33 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者一人ひとりの、特徴や趣味を職員は理解に努め、各入居者の状態・状況に合わせた環境を作るよう努めている。入居者のできることを探し、できることを職員が入居者とともにを行うことで、孤立した状況を作らないようにしている。またその中で会話を楽しみながら人間関係も作っている。		
34 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された後でも、職員は、入居者・家族にも同様に気軽に電話できる環境作りに努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の言動には必ず理由があり意味があると考えている。職員はよく聞き取り理解をすることで、その方の不安や思いを知り、その人主体の生活を考えケアプランに取り込んでいる。 また、入居者を担当している職員と顔なじみの関係を作り信頼関係の構築を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前並びに入居後においても、本人や家族にこれまでの生活歴やサービスを利用されていたかを、以前のケアマネージャーや関係者等に尋ね、慣れ親しんだ物や環境作りに努めている。		
37 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の意見や思いを取り入れた日課表を作り、入居者の、そのときの気分、心身状態を考慮し、その方の以前の生活のリズムを壊さずに際のない生活を送っていただいている。 その方のできることや出来ること探しにおいて、そのかたの楽しみや役割の確立に共に考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族を交えたカンファレンスを行い、介護職員・ケアマネージャー・社会福祉士・看護師・理学療法士参加によるカンファレンスにて、入居者に必要なことや可能なことを話し合い、介護計画を作成している。		
39 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	「小さな変化においても介護計画の見直しは必要である」それを基本に、本人に変化が生じた場合は状態に合わせて、カンファレンスを行い、入居者の現在必要なことや可能なことを話し合い介護計画を作成し、ケアの統一を行っている。		
40 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当施設では各入居者の介護記録があり、その中でもSAOP形式で記録することで、入居者の思いや状態や変化をいち早く把握出来るようにしている。		
41 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の要望や当施設で限界がある医療があった場合でも、医師・歯医師の往診や、状況に応じては他機関での入院治療も行えるような支援体制を組んでいる。他機関の送迎も本人や家族の状況に応じて行っている。	○	まだ、実践はないが、本人や家族の要望があればターミナルケアを行える環境を作っていくたい

福岡県 グループホーム 市の上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	二ヶ月に一度運営推進会議を行い、そこでは自治会長や民生委員の方にも参加して頂き、協力し合いながら共に支援していく様な状況を作っている。また、消防等にも連絡を取り半年に一度は消防訓練、避難訓練を入居者と共に実施している。	
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジヤーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の希望応じた幅広いサービスが必要である為、希望に添ったサービスに対応できるように、美容室や、福祉用具の相談やレンタル、利用等、事業者と連携並びに情報交換を行っている。また状況の改善により自宅復帰が可能になつた場合は、地域での支援を構築しやすいような連携体制を地域包括支援センターを中心に組織している。	
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者の必要現状に応じ、見過ごされがちな認知症の方の人権を守り虐待等が発生しないよう運営推進会議への地域包括センターより参加をしてもらい助言をもらっている。それと平行し、地域情報の共有化を行い、身内だけでなく地域からの目で意見を出し入居者に限らず高齢者全般の支援を考え、地域でお困りの方の介護相談や入居に繋げている。	
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	随時かかりつけ医による、本人ならびに家族に病状説明を行っている。入居者並びに家族に診療情報提供を行い、本人並びに家族の意向を受診時に医師に伝え、かかりつけ医ならびに施設側にて、その方にあった適切な医療の提供を行っている。 当施設のかかりつけ医と入居者は、24時間の医療連携を結んでいる。	
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知スケールをとり、数値により標準化し、認知症の理解を深め、職員間で変化に気付き素早い対応が出来る状態にしている。かかりつけ医が認知症に対し、造詣の深く職員が相談、的確な指示を受けられるよう支援している。	
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当施設では看護師を配置しており、入居者の健康管理や介護職には適切な対応の仕方などを教えてもらっている。また必要に応じて看護師より介護職へ指導もしている。入居者の状態変化に対応するべく、介護職員に適切で速やかな対応が出来るように、看護並びに医療面での勉強会の実施している。またマニュアル化することで、日常生活における健康管理ならびに医療活用を支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	他機関の関係者、家族に連絡を取り本人の状態をいち早く把握し早き回復に向けたサービスが出来るよう努めている。また本人が療養生活に安心した雰囲気で望めるように、お見舞いなども行い、入院前からの関係継続に努め、入院時の不安や悩みを聞き、早期退院に向けての心的支援を行っている。		
49 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まず、本人・家族に今後に向けた思いや考えをお聞きした上で、かかりつけ医と共に今後のケアの対応の仕方を考え、その意向に添った統一したケアを行うようにしている。		
50 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、実績はないが、いつまでも「そのひとしさ」を大切に、そのかたができる事を大切に支援しており、全職員がケアの統一を行うようにしている。		
51 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在の本人の状況・状態を別の居所の関係者等に伝わるよう電話連絡やサマリーにて情報提供をしており移り、変わることでの本人への負担軽減に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時において、秘密保持の厳守を徹底している。また、入居施設の特性上、馴れ合いの関係になりがちであるが、入居者一人ひとりの生育暦や生活環境を把握し、また現在の思いや意見を聞くことで、本人の人権を尊重し自尊心を傷つけないよう指導している。		

福岡県 グループホーム 市の上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者一人ひとりの声を傾聴し、希望に添った事を実施している。その実践のためにはケアプランを通して、本人のニーズを最優先し、全職員意識したケアを行っている。 本人の思いを素直に聞くための信頼関係を築き、それに応じて出来る範囲での希望を満たしていけるよう支援を行っている。		
54 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の身体・精神面を配慮し、本人のペースに合わせ自己実現のためのケアプランを作成し、それに基づいた場面作り出している。 職員は常に、入居者の出来ること探しを考え、その方の楽しみを奪わない支援をしている		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が望む、理髪店等、希望があるときに付き添いするような支援を行う。 毎朝、起床時には洗面・整容介助を実施しており、日中にも至っても整容・身だしなみには十分配慮している。整容にも目を配り直すよう全職員が心がけている。		
56 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	和気藹々と入居者がつくるおやつ作りをし、楽しい時間を共有している。調理や片付け等、役割をもつていただき役割を奪わない支援を行う為に、体調に合った声かけとタイミングを見守りを行い、本人が負担にならないように支援している。		
57 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の趣向を取り入れた食べ物やおやつ作りを隨時行っている。また職員と一緒に買い物に行ったりと、職員と共にコミにケーションの場を取っている。たばこについては、喫煙場所を設けている。 酒については、たまに飲まれる方がいるので、ケアプランにうたい、統一した支援ができるようにしている。		
58 ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄間隔を排泄チャック表でつかみ、本人にあった排泄パターンで隨時・適時に排泄誘導を行なっている。また日中紙パンツ使用の方はオムツ外しや本人にあったパット選びに力をいれている。個人の認知状況に応じた声かけを行い自尊心にも配慮している。		

福岡県 グループホーム 市の上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入居者に入浴希望の確認し、状況・状態にあった入浴を提供する。体調不良等で入浴できない場合であっても清拭等行い清潔保持に努めている。自立してある方の入浴中の見守り、声かけは羞恥心に配慮して行っている。 強い拒否のある入居者については、入浴券を配布する等、本人が入浴に興味関心が持てるような工夫を行っている。		
60 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	今までの生活習慣を本人・家族に聞き取りし、本人が使い慣れた寝具など使用していただいている。 昼夜逆転傾向にならないように、日中に外出や日光浴など気分転換を図り良眠出来るように支援している。またベッドでの休息においては、寝かせっぱなしにならないように、本人の体調に合わせて行っている。		
61 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人・家族からの情報を得ることで、一人ひとりの今までの生活習慣をいかした得意とする役割を持ってもらい、その中で楽しみや生甲斐を持てるような支援を行う。		
62 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者並びに家族との相談をし、可能な限り自己管理が出来るように支援している。 金銭感覚が不十分な方においては、職員付き添いの元、買い物が出来るように支援を行っている。		
63 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、天気や身体状況に応じ外出できるように支援し生活圏の拡大を図っている。 施設内だけの食事にならないようテラスで季節を感じての食事や、行事毎においても、花見や紅葉見物等行っている。		
64 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないとこに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望があれば家族に連絡し、お墓参り、法事、外泊、外出出来る配慮をしている。 家族に外食希望等、対応していただく事で、家族との関係を断ち切らないようにしている。		

福岡県 グループホーム 市の上

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話や家族については制限無く自由に行えるようしている。家族より電話をいただいた際はお取り次ぎをしている、その際プライバシー保護の立場から、希望があれば居室での電話の取り次ぎにも対応している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	全個室にて個人のプライバシー確保並びに家族希望時には宿泊も可能としている。面会においては夜八時までとし、仕事帰りにも立ち寄れる時間設定をしている。 来館時には職員一同明るく歓迎をし和やかな雰囲気を提供している、また入居者同士でお茶出しを行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、身体拘束がやもえず必要になった場合、家族に速やかに説明をし、早期に撤去できるように配慮している。職員には身体拘束にたいしての、資料配付、周知徹底に努めているが「介護保険法指定基準」等については随時、指導改善に努めている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・窓は日中は開錠し入居者の方の閉鎖感に陥らないよう施錠をしない。エスケープのリスクが高い方に対しては職員間で周知し未然に防ぐ連携を取っている。 今後も施錠を行わないよう、勉強会での職員への意識付けを行っている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮した、さりげない見守り、声かけ、傾聴に努め職員間での所在の確認の声かけの徹底している。夜勤では定時・随時の巡視、随時、入居者に合わせて行っている。 事故対策委員会にて、ヒヤリハット・事故に対しての、統計と分析をかけ今後の事故を未然に防ぐ対策をしている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や包丁などが入居者の生活の中にあるのは当たり前とし、その中で全部を排除するのではなく専任者が危険物予測を行い管理している。 刃物等については本数確認・取り扱いについてはチェック表にて管理している。		

福岡県 グループホーム 市の上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書は3日以内、事故報告書は24時間以内に提出を義務付け、対策において24時間以内に職員間で緊急カンファを行い事故対策について即時対応と周知徹底を行っている。 事故対策委員会にて、ヒヤリハット・事故に対しての、統計と分析をかけ今後の事故を未然に防ぐ対策をしている。		
72 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時においてのマニュアル、事故発生時のフローチャート作成。 定期的に消防より緊急救命法、応急処置の訓練を実施している。		
73 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日々より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策委員会を設け、災害時対策マニュアルを作成。定期的に消防本部を招き、避難訓練指導に取り組んでいる。 災害時において、近隣住民の方の緊急避難場所として位置づけられており、近隣との方の互いの協力体制を築いている。		
74 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクマネジメント委員会を立ち上げ リスクを回避することでその方の出来ることにつなげていける支援を考えている。 ケアプラン説明時、リスクに対しての署名捺印をもとより入居者の状態・変化等あれば家族連絡し電話連絡・来館時に入居者の安全を考慮していることの説明を行い、理解を深めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の疾患やリスクを職員は理解・把握をし変化等あればSOAP記載をすることで、早い段階での気付きをする事で対応している。毎日の10時のバイタルチェックや月2回の体重測定など、もし異変があれば、速やかに看護師に報告し速やかな対応をしている。また看護師不在時には、かかりつけ医へ報告し対応できる医療連携を結んでいる。		
76 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の処方薬が分かるように、スタッフルーム内に掲示している。誤薬防止のために1包化し二人の職員で確認し服薬支援をしている。服薬の最終確認をチャック表にて記載し確認をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適時・随時の水分補給を行っている。医師や看護師、理学療法士指導による、毎日のリハビリ体操並びに個別プログラムにて便秘予防体操を積極的に実施して取り組んでいる。		
78 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、義歯洗い、うがいを居室でされ、口腔内の点検がなされている。個人の状態にあわせた、スポンジ、舌クリーナーを使用し、口腔内、残渣物を取り除き、口腔内を清潔に保っている。夜間、個人の状態にあわせ、保湿スプレーを使用して口腔内においや乾燥を防いでいく。定期的に歯科往診が行われている。		
79 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のカロリーは約1500キロカロリーで、業者による福祉食を利用しておる、栄養バランスも考慮している。また、水分・塩分制限のある方は個別に対応している。毎日のバイタルチェック表記入にて個人のバイタル、食事量を職員は把握している。水分・塩分制限のある方は、病院の栄養士の協力により定期的に栄養指導を受けている。		
80 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	一作業一手洗とし、アルコール消毒液を設置している。全入居者、職員、インフルエンザ予防接種を実施し、外出より戻ったら必ず手洗いうがいをしていただいている。感染予防委員会を中心にもっと職員が感染予防に対する知識を身につけ感染予防に努めていく。入浴時、各個人使用の足拭きマットを使用することで白癬の感染を防いでいる。		
81 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所チェック表に基づき定期的に調理用具の消毒をしている。台所に温湿度計をおいており、キッチンの温湿度を調整することで食中毒を予防している。食材は一括購入するのではなく、食材を業者による配送をしている。毎食、食材は全部使用し、新鮮で安全な環境での管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
82 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	木々が庭に植えられており、玄関にはスロープと手すりがある。 大きな表札があり家庭的な雰囲気である 玄関は外部から見やすいように、ガラス張りにすることで開放感を出し、出入りをしやすいように環境づくりをおこなっている。		

福岡県 グループホーム 市の上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶室があり和の空間がある。照明は適切な明かりがコントロールできる設計になっており、日差しは二重カーテンで調整している。 テレビ・音楽は音の混濁がないように、一方しか流さないようにしている。 玄関、居間には季節の花や物を置いている。		
84 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合つた利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に椅子やたたみコーナー、ソファを置き、自分の好きなところで過ごせる。テレビを視聴したり、入居者同士で談話が出来る。		
85 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の延長上として、本人の使い慣れた物や家具をおいて本人の使い慣れた物や家具を置いて生活感の出る工夫をしている。また入居者、家族に関して書面・口頭にて隨時説明をしている。 整理整頓が出来ない方に関しては、その方の意見を聞きながら一緒に行っている。		
86 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気にも努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	抗酸化工法を全館に施工した健康住宅である。24時間換気システムを取り入れている。朝、昼、夕に全窓を開けることで空気の入れ換えを行っている。全室に加湿器を設置し、フロア・トイレ・浴室には温度・湿度計を設置している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーであり、段差をなくしている。理学療法士によるADL評価を行い、個々の身体機能にあった、安心した生活が送れるように場の提供を行っている。 プーリー・メドマー・リカンベントでのADL維持を行っている。		
88 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	カレンダーはひと月用の手作りの大きなもので見やすく、一日の食事メニューをホワイトボードに日付と共に書くことで生活時間にメリハリを付けている。時計は見やすい位置に大きなものを設置している。		
89 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に季節のお花を植えてあり、季節を感じていただいている。各居室に小さなバルコニーがあり、お花など、鉢で育てられたりと個人の自由に使用できる。 庭に、梅の木、ブルーベリーの木を植えることで、入居者に収穫の楽しみや、それを食べる楽しさを味わっていただく。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
96	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
100	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者のこれまでの生活環境や生活歴、現在の生活リズムに知り、現在利用者本人が必要としているものは何か、何が一番困っているのか、また家族はどのように感じ、同じ気持ちなのかを情報の一つとして取り入れ、「であります・ふれあい・みとめあい」の理念のもと、市の上の全職員一丸となって真剣にその方の気持ちに寄り添い、いかに住み慣れた地域の中で安心してより楽しく笑顔を増やし毎日を過ごせるかを各専門職が検討しアプローチしていくことで、本人はもちろん家族やその周辺の方々のニーズの充足に当たらせていただいている。利用者の現在出来ていることを当たり前として捉えるのではなく、その能力を次ぎどう活かして行くのかを、明日に続く支援に取り組んでおり、その場面場面で利用者等に応じた柔軟な支援体制をとっている。